

講座 ジャンル	俳句	教員名	いけだ ゆたか 池田 饒
------------	----	-----	-----------------



俳句 17 音に

四季や心の移ろいを

詠んでみましょう

私の一句（令和六年前期）

告知せし医師の背な越し蝉時雨

津喜枝

更地にも赤き提灯秋まつり

恭子

亡父ちちからの残暑見舞いか風一陣

よし子

心経の墨の乾きや残暑かな

幾子

萩の花淋しいと美しいは似ている

満里子

里帰りふと朝ぼらけ鹿一二

和三

アラスカは緞帳の如氷河落つ

寿子

生と死の境はわずか秋出水

郁子

戦いに水ブツ掛たい炎天下

静枝

総立ちの大ホームラン夏さか旺ん

和代

枝豆の胸いっぱいに青の味

雅代

残骸の片陰なるも能登まつり

義行

鬱屈の意を正すごと若葉吹く

信子

取り込みを暫し忘れて日脚伸ぶ

ますみ

孫という怪獣が来た夏休み

さき子

変はりゆく地球にわけを訊く残暑

ゆり子

イルカから龍へと変わる夏の雲

眞理子

蛍籠そつと扉を開けておく

きよか

潦（にわたずみ）先逝くきみに春の雨

勝

秋風や凡夫の背負う二つ三つ

饒

